第66回特別展

※この図録は現在当館では扱っておりません。

ー19世紀の夢と現実ー

オルセー美術館展1999

19世紀後半は、産業・技術が著しく発展を遂げ、瞬く間に社会を変えていった時代でした。鉄道の普及、巨大建築物の出現、電気による照明‥‥‥。都市は新しい文明により大きく変貌、また人口の集中により巨大化し、近代都市へと生まれ変わりました。

19世紀後半は、科学や技術の進歩を背景に産業が驚異的に発展し、パリなどの大都市ではそれまでにない華やかで活気に満ちた文化が花開いた。人々は、美しいファッションに身を包み、陽光きらめく浜辺にリゾートに出かけるなど、その果実を享受する一方で、戦争や労働の辛苦など、産業の発展や社会の急激な変化とともに起こる、さまざまな現実に対時しながらも、そこから生まれる欲望や苦悩から離れて、神話や宗教、文学といった理想主義的な世界に憧れたり、自己の内面に深く沈潜し、夢想に浸ることを指向するといった二面性が深く見られる。世界屈指の印象派絵画コレクションを誇るオルセー美術館は、19世紀後半から20世紀初頭にかけての、絵画はもとより、彫刻、工芸、家具、建築、写真などあらゆる分野に及ぶ近代美術の優品を数多く所蔵している。1900年のパリ万国博覧会のときに駅として建設された建物を改装し、1986年に美術館として再生したオルセーは近代の輝かしい文化・芸術の象徴として、セーヌ川をはさんで対岸に位置するルーヴル美術館と人気を二分し、世界中の美術ファンに親しまれている。

本展は「19世紀の夢と現実」というテーマのもと、日仏両国の専門キュレーターが選りすぐった134点の造形作品によって、20世紀を創り上げる源泉のひとつとなり、今世紀末のわれわれにまで至る近代精神の二面性と、芸術家たちの鋭敏で繊細な感受性をあますことなく紹介し、オルセー美術館の魅力を最大限に引き出すことをねらいとした展観であった。

1996年に引き続き二度目となるオルセー美術館展だったが、フランス国外では初の試みとなった前回のコレクション展「モデルニテ　ーパリ・近代の誕生」とはテーマ構成・出品作品を新たにし、さらに内容を充実、深化させた試みであった。

会期／平成11年6月19日（土）～8月29日（日）

会場／特別展示室1、南蛮美術館室、特別展示室2、ホール

主催／神戸市、神戸市立博物館、オルセー美術館、国立西洋美術館、日本経済新聞社

後援／外務省、フランス大使館、テレビ大阪

協賛／アサヒビール、大林組、キャノン、JR西日本、第一勧業銀行

特別協力／大日本印刷、安田火災海上保険
協力／日本航空／日本通運
開催日数／62日
入館者数／480，014人
出品件数／134点